丸山湿原群保全の会会報

（第 139 号）

発行日：2019 年（H31）２月 13 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

１月末から雪がよく降るようになりました。寒いか？といえば寒いのですが、異常に暖かい日もあり体調管理が難しい今日この頃です。インフルエンザも猛威を振るっているようです。お年寄りには命取り。介護施設での集団感染で多くの方が亡くなっています。お気を付けください。

アメリカ・北日本では記録的な寒波。－42℃とか最高気温－10℃以下とか聞いたこともないような数字を耳にしました。直前には 20℃近い気温があったりしてなにがなんだか分からない状況です。トランプさんはアメリカ大寒波をいいことに「どこが温暖化だ！」などと言っているようですが、気候の極端化が温暖化現象の一つということを抜きに発言されているようです。ちょっと古い(?)表現かもしれませんがステレオタイプの発想。今の時代に重要なのは、物事を総合的に見て判断できる力。ダイバーシティ（多様性）そのものが重要なのではないでしょうか。全てのものがつながりあっていることをいつも頭に入れておかないと、どこかで大変なことが起きるのでは？

ちなみに、ユーラシア中緯度域の異常寒波の原因は北極海「海氷」の減少が関係しているという研究結果が、つい最近発表されました（東京大学　先端科学技術研究センター）。ということは極地の温暖化が寒波をもたらせている一要因ということに。北極海航路の利権などとつまらないことを考えている場合ではないのでは。

ま～大国は宇宙空間の利権も視野に入れているようですが…。これでは、近いうちに「インドラの矢」が落ちてくるような気がします。

（今住　２月 11 日作成）

定期活動　★1 月 27 日（日）協働作業　　雪のため中止しました

「北摂里山愛す会」との協働作業は３年目になりますが、今年は、前日夜に積雪。やむなく中止。厳寒期の協働は不安要素が多いとのご意見もあり、３月の最終活動で協働できないかと思案しています。よろしくお願いします。（未確定）

27 日の前日、26 日夜の積雪状況　活動中止を決定

活動予定の前日は、個人的な秘密会合があり篠山市内に行っていました。16:00 頃の出発でしたが、その時は積雪少々。篠山に着くとさすがに完全な雪景色。集まりの方たちからは「よく来られたね」と驚かれました。ひょっとして篠山圏以外のメンバーは私だけ？と思いましたがその後何人かが参加。神戸からも。時間短縮モードで会合終了。自宅（西谷）へ帰ったのが 20:30 頃。その頃には篠山も西谷もほとんど変わらない状況。気温は西谷のほうが 1℃低い状態でした。車で約５０分。篠山の気温も下がっていたのかもしれませんが、寒暖の差は篠山とほとんど変わらないような気がします。西谷の農産物が美味しいのも納得できます。ぜひご賞味あれ！「丹波西谷」ブランド誕生か？（西谷は摂津の国川邊郡でしたが…）

初山売り　（農村コラム第２弾　長くなりメインの記事のような。間違いはご容赦ください。）

前回のコラムが結構好評だったので、調子に乗って第２弾を！今回も玉瀬の伝統的な風習？行事？「初山売り」の紹介です。

村の初山売り　境界確認中

貸地（栗山として）の確認

実は中止した丸山定期活動日に予定が入っていました。それがこの「初山売り」。例年、年初の第３日曜に実施。ところが今年は雨で延期。第４日曜になりました。もともとは正月の４日に弁当持ちで実施する行事です。が時代に合わせ日曜の半日行事に。

内容は名前の通り「山を売る」。といっても土地を売るのではなく、立木の売買が目的。玉瀬地区は村有林（明治以来？）が多くあり、林業・炭焼きが盛んな地域でした。丸山湿原群も３ヶ村（大原野・境野・玉瀬）の共有林でした。もともと全て玉瀬の山だったものを、税金対策に ３ヶ村持ちにしてもらったという噂もあります。真偽のほどは？？？

鉄道の開通（明治 32 年）も早く、町（池田等）にも比較的アクセスがいい。武田尾駅は玉瀬の底地で、貨物として木材も多く運ばれたようです。そんな理由なのか、はたまた農地が少なく苦肉の策としての林業だったのか？そこらへんはよくわかりません。

ただ、燃料革命（薪炭から石油）前までは、燃料の薪炭産業は最も重要な産業であったに違いありません。その薪炭としての木を入札するのが「初山売り」です。おそらくどこの村でもやっていたことと思いますが、現在西谷の他地区で実施しているかは不明。（情報を！）

とにかく村の共有林を見て回り、切り出しに便利か、炭に適当な立木かなどをみんなで吟味し入札するというのが本来の目的です。（もちろん材木や他の目的もあったと思います。赤松がメイン？）

しかし現在は、燃料としての木は価値なし。材木はコスト的に見合わない。ということで、村の山と他所有者との境界確認が中心（今回は貸地確認中心）。もちろん、シイタケ栽培のためのホダギの入札希望は今でもあります。買った山については２年(?)以内に皆伐（松を除く）が原則。同じ場所の入札は木の成長を待ち、約 20～30 年後となります。パッチワーク状の山模様となります。以前は刈り取った山の木の残り枝や落ち葉すら、柴や緑肥に有効利用。松茸もたくさん生えるわけです（山の貧栄養化）。里山の本来の姿でしょうね。しかし江戸時代～明治、人口増加とのバランスで薪が不足することも。刈り取り量が多すぎると「はげ山」に。丸山湿原誕生の物語が見えてきます。多田銀山用の精錬用薪炭も重要なファクター？

西谷にはクヌギはほとんどなく、アカマツ・コナラ主体の薪炭林です。従って「菊炭」は焼かれていなかった？しかし、村の古老に聞くと「黒炭≒菊炭」「白炭≒備長炭」両方焼かれていたとのこと。炭窯跡も山の谷筋のあちこちで見られます。私は、菊炭が焼かれなかったのは猪名川流域と武庫川（暴れ川で水運には不向き）流域の違いなのではと勝手に思っています。それとも菊炭より他の炭のほうが需要があり売りやすかったのかも。生活のためにわざわざ高い炭を買う必要はないですものね。ちなみにクヌギもコナラも自然植生ではなく代償植生（２次林・３次林）なので植えられたものと考えられています。アカマツも？自然植生は照葉樹（カシ・シイなど）だそうでこれも炭にはぴったりですね。ほとんどが伐採され、その後成長の早いアカマツやコナラが植えられたのでしょうか？自然植生のカシ（残存植生？）は、社寺林（鎮守の杜）にわずかですが大木が残っています。稀少でほとんどが RDB 指定されています。若木はたくさん見られます。いつかコナラも枯れ、カシの森があちこちに誕生するのでしょうか？暗い森に。多様性のない森に…。

西谷小学校オープンスクール　★招待状をいただいたので行ってまいりました。

環境学習で協力している宝塚市立西谷小学校のオープンスクール。１月 28 日（月）から２月１日（金）の日程で実施されました。今年は招待状をいただき、「これは行かねばならぬ！」とちょっと苦手な学校という場所へ。同時に幼小中学校合同の図工展も体育館で実施されていました。

小学校体育館入口の展示が美しい

まず体育館へ。入るなり驚きです。時間帯がよかったせいもあるのかもしれませんが、朝日に輝くモビールカーテン。質感といいとても丁寧で、訪れる人を異世界へ暖かく誘ってくれます。少人数の学校ならではのゆったりとした展示です。作品を順番に見ていくとまず目にとまったのがザリガニ。大きな画用紙にのびのび描かれています。要注意外来生物ではありますが、昔から定番の遊びであるザリガニ釣り。どこにでもいてカッコイイ存在です。今でも定番なのでしょうか？しかし最近めっきり数が少なくなっているような？型も小型化している？よいことなのですが…気のせいか？話を戻しましょう。とにかく見事！隣に目を移すと３年生のコーナーが。ありました、ありました。丸山湿原コーナー？ハッチョウトンボやサギソウなどが描かれています。また、「たからづか市民環境フォーラム」で発表した壁新聞も。中学生の作品も見せていただきましたが、幼小中全て、とにかく丁寧な作品が多く根気よく取り組まれているのがよくわかりました。少子化の悪い点ばかり指摘されますが、少ないからこそ目の行き届いた丁寧な教育ができていると感じました。

のびのび描かれたアメリカザリガニ

小学３年生　丸山湿原の生き物

個性的な丸山湿原の生き物

その後３年生の授業に紛れ込み、一緒に英語の学習。給食準備も見学させていただきました。びっくりしたのは、１年生の給食準備。おつゆを入れる、パンやおかずの配膳などをほぼ自分たちだけで…。「自分たちだけで出来るの？」と聞くと、「もうすぐ２年生だから！」と明るく自信たっぷりに答えてくれました。すごい！見習わなければ！と思う経験でした。西谷小学校たいしたもんだ！　20 日の環境学習も楽しみです。

★２月９日（土）　定期基礎調査・巡回、観察、外来種除去　臨時作業　７名の参加

今回も観察日ですが、湿原内（第３湿原・第１湿原）ヌマガヤ刈り取りを実施しました。

目的	市内	市外
丸山	5	9
ハイキング	15	4
その他	0	0

来場者数　計 33 人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：10	4.8℃		
視点場	10：45	4.4℃		?
第３湿原	10：30	【5.8℃】	33.7μS/cm	6.7
第１湿原	10：50	【4.5℃】	32.9μS/cm	7.3
第２湿原	11：05	【4.2℃】	37.3μS/cm	6.6

第 2 湿原ヌマガヤ刈り

第 1 湿原　アカガエル類卵塊

アカガエル死骸と散らかった卵

基礎調査も行いましたが、竹筒ポストの節が抜けてしまい正確な（もともと正確ではないのですが…。）数がつかめなくなりました。前の更新が平成28年（2016年）ですから、3年でダメになりました。幾度となく小鳥の産卵を受け止めてきた竹筒ポストですが、更新時期が来たようです。**孟宗竹の良いのを探すことにします。入れてもらえるようにエ夫も加えましょう！**

さて、今回も臨時作業。時期的には**両生類の産卵期**。数日前に雨も降って条件的にはぴったり。産卵しているのではと期待しながら、ヌマガヤ（沼茅）の刈り取り作業を始めました。

半分のカスミサンショウウオ卵嚢

第3湿原の3分の1が残っていたのでまずはそれから。同時に基礎調査メンバーはデータ観測。**第3湿原では今のところ卵を確認できず。まだ、西谷付近からの産卵情報もありません。**

今年は暖冬（今は寒いですが）なので早いかと、1月末ごろから始まる？と想像していたのですが気配なし。雨が異常に少ないことも影響するのかもしれません。

カスミサンショウウオ卵嚢

第1湿原へ作業を移します。ひと息ついたときに**産卵しそうな場所へ観察に！ありました、ありました！アカガエル（赤蛙）類（多分ニホンアカガエル）の卵塊が。それも次々と見つかります。ざっと見た感じで10塊はある。カスミサンショウウオ（霞山椒魚）はどうなんだ？と探すとこちらもいくつか見つかりました。**しかし、**いくつかの卵（卵塊・卵嚢）がほつれたり、片方だったりしています。**

通常アカガエル類の卵は如来（釈迦）の頭のようにボコボコと卵がつながっています。それに対してカスミサンショウウオの卵嚢はバナナが2本垂れさがったようにつながっています。それが1つの卵だったり、バナナ1本だったりの状態が。周りをよく観察してみると、どうやら**イノシシ（猪）**が駈けずり回っているようです。おまけに湿原真ん中に「うんこ」まで。しかし鼻で土を起こすことまではしていません。ヌタ（沼田）にもしていません。カエルやカスミサンショウウオを食べるのでしょうか？卵はまず食べないと思いますが…。冬場餌の少ない時期。イノシシの行動にも興味が湧きますが、あまりの乱行はご法度です。多分若い小さな個体でしょう。**イノシシによる適度な攪乱も湿原維持に役立つそうな。適度に適度に！豚コレラにだけはならないでね。なったらえらいこっちゃ！冗談ではすみません。**

丸山湿原セミナー・両生類卵塊数調査

丸山湿原（両生類）セミナーと両生類卵塊数調査を３月２日（土）に実施します。セミナーは今年も「兵庫県立宝塚西谷の森公園」多目的室で。10 時 30 分～。オオサンショウウオ研究の権威田口勇輝さんにお話を伺います。テーマは「両生類は生き残れるか？」午後は丸山湿原で卵塊数調査。田口先生もご一緒されます。湿原内に踏み込める数少ない機会、ぜひご参加ください。

次回活動

２月 20 日（水）環境学習　２月 24 日（日）作業　3月2日（土）セミナー・卵塊数調査
3月9日（土）定期調査と作業　3月 24 日（日）作業（協働できるかも？）